

関係者 各位

右田放課後チャレンジ教室

令和5年度 活動報告 (活動の概要等)

右田放課後チャレンジ教室
運営委員長 門田 輝義
コーディネーター 野崎 勝美

1. 活動の概要

- (1) 新型コロナの感染も沈静化し、今年度は計画した **33回**の活動を全て実施することができた。(1学期7回、2学期16回、3学期は10回と合計33回)
(2/16 現在、あと4回未実施) 資料—1
- (2) 新型コロナの感染はかなり沈静化し、これによる休みは減ったが、2学期後半はエンフルエンザによる休みが増え、全体的に平均出席率は93%程度と平年より2~3%低かった。但し今年度の児童には、団体活動になじまないような児童はほとんどいなく、指導はわりとやり易かった。--- 資料—2
- (3) 今年度も参加希望児童が64名と多かったが、指導者の人数(実質参加して頂ける指導者)が病気、家庭の事情、転居等で7~8名と減少したので、参加児童定員を40名としてスタートした。しかし、スタート後すぐに、児童1名が本人の事由で辞退したが、追加募集せず、**39名で実施**している。
高学年の参加者が少ないので今年度も募集時、再度高学年児童の参加をよびかけたところ、今年度は6年生4名、5年生5名の参加があった。
高学年生には教室のまとめ役・指導的立場になってもらうよう、例えば始業・就業時の挨拶や整理・整頓など、また班別にチームを分けた時のリーダーとして低学年の指導を担ってもらうようにした。徐々にであるが高学年としての意識を持つようになってきている。
(1年8名、2年13名、3年、5名、4年4名、5年5名、6年4名)
---資料—3
- (4) 懸案であった推進員(児童の出欠確認、活動支援、安全指導、準備、後始末等を担当)2名の増員を実施した。
9月からの就任であったが、児童の受付、下校確認、準備・後始末などに力を入れて頂いている。
- (5) 活動の内容は、基本的には今までと変わらない。資料—1と、6 参照
今年度の特徴としては、
①学校の働き方改革の1つとして、水曜日の午後の就業時間が約30分程度

早まり、チャレンジ教室の時間も 30 分程度増えたので、後半の 30 分程度を自主学習に当てている。児童に内容は任せているが、多くの児童は、宿題読書、i-PAD の練習などに当てており好評である。

(講師の活動が 1 時間以上に伸びる場合は、その時間に優先的に当てている)

- ②今年度は、地域の専門家、経験者や市の人材バンクの指導員に講師を多くお願いし、その道の優れた人の経験、技を見聞した。
- また、地域老人会、右田伝承会、山岳同好会、地域包括支援センター等との交流を深め、昔のあそび、きずなの森探検、石船山登山、さつま芋の苗植え・収穫など、いろいろな活動に支援を頂き、児童とも楽しいきずなを築いてもらっている。 資料—1
- ③チャレンジ教室の広報にも力を入れ、右田公民館の祭り（フェア）や、小学校の広報板にチャレンジ教室の活動写真を掲示し、地域の皆様にチャレンジ教室を紹介した。
- ④従来、校外の活動には防府市のバスを 2 車利用していたが今年度より、1 車しか利用できなくなったため、あと 1 車を（社福法人）心促協会や海北園にお願いして、少し遠方にでかけての校外活動が継続することができた。
- これも日頃からの地域の方との交流のお蔭で、快く協力頂き大変感謝している。

2. 成果

- (1) 参加児童が喜んでチャレンジ教室に来てくれている（出席率約 93%）、また大きなトラブルも、怪我もなく安全に実施されているので、この教室の目的である「安全で有意義な放課後の楽しい居場所づくり」は十分達成できたと思う。
- (2) 6 月から毎週水曜日、計画通り 3 3 回実施できたことは大きな成果の 1 つである。（継続は力なり）これは、指導者全員の熱意と、支援・協力頂いた右田小学校の先生方、そして児童の指導や講師として教えて頂いた地域の諸団体の皆さんのお蔭と感謝しています。
- ただ、高齢化等による指導者不足などを考えると、今後は少し回数をへらす、などの負担減少を検討する必要があるかと考えています。
- (3) 地域活性化については、コロナによる各種の地域活動団体の活動休止や縮小からの再稼働が心配であったが、我々が今まで交流・協働していた団体（右田老人会、右田伝承会、地域包括支援センターなど）とは、我々の指導員

と相互に会員となっていた方もいた関係で、却って協働する動きが強くなり、関係が密となって、各グループの活性化に繋がっている。しかし、その輪はまだまだ小さく、今後はこのような関係が、その他のグループとの交流に広げられるかが課題である。

3. 今後の課題

(1) 地域活性化への取り組みについて

2. (3) で記したように、今まで協働してきた活動団体とは協働・交流は今後も続けて行くが、その他のグループとの交流をいかに広げていくかが課題である。今年度も指導者で検討していくが 一つは各自治会へ働きかけて、まずは地域の隠れた特技や経験を持った人を発掘し、チャレンジ教室の講師となってもらう。二つ目は右田の公民館や福祉センターで活動している講師やグループへの働きかけをして、交流の輪の広がりを進めていきたい。

(2) 高学年児童への教室参加について

昨年度は2回目の参加の働きかけを行ったところ、6年生4名、5年5名の参加があった。参加高学年生には1. (3) のような働きかけしている。初めたばかりなので、まだまだ成果があったとは言えないが、辛抱強く今年も参加の働きかけを行い、参加者があれば昨年度の経験を活かし、高学年への期待を示し、高学年らしい態度、行動を取れるよう指導していきたい。

資料—3

(3) 異年齢の児童一緒での活動について

昨年度後半、講義を受ける態度が乱れが見られたので、指導者で検討し、1つの案として、出来るだけ異年齢児童をいくつかのグループに分けて行動させることが提案され実施してみたところ、効果がみられたので、今年度もグループ化して活動できるものはさせて、(協力すれぱうまくいく、仲間意識を強くする...) などの良い効果がでるよう工夫したい。

(4) 活動費の確保

昨年度は貴教育会の助成金1件のみであったので、活動費用はタイトなやり繰りであった。貴助成金は、講師謝礼や工作材料費等に有意義に使用させていただいた。今年度はチャレンジ教室活動10周年の記念の年であるので、記念の行事を計画したいと考えている。さらに費用が必要となるので、貴助成金に加えて他の助成金などにも応募して、活動費の獲得に努めたい。

資料—5

(5) 指導役員（コーディネーター、推進員等）の交代

指導役員の交代は昨年度も提案したが、適任の後継者がいないとのことで、継続になった。今年度は10周年にもあたるので、新指導員にバトンを渡し、新しい感覚で活動の内容、運営を刷新し、最近の電子機器（i-pad PC,TV,動画など）も利用した新しい内容、方法を模索してほしい。

以上

添付資料

1. 1, 2, 3 学期の活動予定表と実績（実績は2月中旬まで）
2. 参加指導者数、児童数の実績
3. 募集について お願い
4. 1, 2, 3 学期の活動報告（写真）
5. 貴助成金の使途と領収書（写し）
6. その他（外部への資料等）